

棚田の保全活動に係る優良事例集について

【棚田キラーコンテンツ化促進ガイド Ver.1（農林水産省）】

棚田キラーコンテンツ化促進ガイド Ver. 1

～ 棚田を核に地域おこしに取り組む事例の紹介とその分析を通じて ～



農林水産省

平成30年7月

■ コンセプト

【棚田とは】

- 山の斜面や谷間の傾斜地（傾斜 $1/20$ 以上とします）に階段状に作られた水田のことを棚田といいます。棚田は「日本のピラミッド」といわれるほどの伝統・文化、美しい景観、教育、国土保全といった多面的機能を有しており、農業生産活動を主体としつつ、地域住民等の共同活動によって守られている国民共通の財産です。
- 棚田の有する多面的機能は、棚田保全の活動における様々な副次的効果として活かされます。例えば、棚田保全活動それ自体が、地域のコミュニティづくり、健康づくり、都市住民の癒やしとなるほか、教育・福祉等を目的とする他の活動団体と棚田を舞台に協働することで、相乗的に双方の目的を達成することができます。これらが多業化の可能性を拡げ、移住定住の促進にもつながります。



【ターゲット】

- このガイドは、棚田保全に携わるあらゆる方（行政の方、地域の方、都会の方）や、棚田を核に地域を元気にしたい、仕事を作りたい、移住促進したいといった想いを持つ方にご活用いただき、ご自分の地域の棚田をキラーコンテンツに据える策を考える手掛かりにさせていただくことを想定しています。

【構成】

- このガイドは、棚田の優良事例集、棚田教室、課題克服一覧、施策活用逆引集の4部構成となっています。先進的な地域の発展プロセスを全国の棚田地域が参考にして取り組めるよう工夫しました。

『棚田の優良事例集』

地域の特性を活かした特色ある発展を実現した地域を取り上げ、どのような取組を行ってきたのかを経時的な一連のプロセスとして整理しました。優良事例はこの他にも多数ありますが、今回は地理的条件や取組の特色などのバランスを配慮した15地域を紹介します。皆様の地域との類似点を探し、これまで評価してこなかった地域の特性、課題を見つめ直すきっかけにしてください。

『棚田教室』

棚田の保全や地域の活性化に向けて地域の方が活動する際、壁になりやすい項目の解決策を、テーマごとに事例を用いて整理しました。事例集の逆引きとしてもご活用いただけます。

『課題克服一覧』

優良事例集で取り上げた15地域が直面した課題と克服方法のみを集めました。

『施策活用逆引集』

棚田の保全や地域の活性化に有効で優良事例でも多く活用され現在も活用できる国の施策を簡単に紹介しています。なお、PDFでは優良事例の活用施策から農林水産省の関連ページに飛べるよう優良事例集中の施策名にリンクを貼っております。併せてご参照ください。

■ 目次（1／2）

I. 棚田の優良事例集（1～30頁）（冒頭：事例集活用ガイド）

整理番号	棚田名	所在地	地理的優位性 ※1	耕作面積 ※2	開発起源	取組の工夫(キーワード)※3													保全団体	中山間地域等直接支払交付金の活用	多面的機能支払交付金の活用	頁	
						きっかけ	多様な人材の活用				経済の流れを起こす												
						地域内体制整備	外部との連携	地域おこし協力隊 (田舎で働き隊)	オーナー制度	企業(CSR)	学生、ボランティア	棚田米販売	6次産業化	都市農村交流	農泊	教育	移住促進	ソーシャルビジネス ネス※4					クラウドファンディング
①	榎平の棚田	山形県朝日町	△	中	近代	◎		◎			○	◎		○				◎		任意団体	○	○	1
②	大蔵棚田	山形県山辺町	△	中	近世		◎			◎	○	◎		◎		○			○	任意団体	○	○	3
③	池谷・入山	新潟県十日町市	△	中	近世		◎	◎	○		○	◎	○	◎	○		◎	◎	○	NPO	○	○	5
④	白米千枚田	石川県輪島市	△	小	近世		◎		◎	○	○			◎						公益財団			7
⑤	寺坂棚田	埼玉県横瀬町	◎	小	中世		○		◎	○		○		○						任意団体	○		9
⑥	大山千枚田	千葉県鴨川市	◎	小	近世		○	○	◎	○		○	◎	◎	◎	○	○			NPO	○		11
⑦	坂折棚田	岐阜県恵那市	△	小	近世	○		○	◎	◎	○	○	○	◎						NPO	○	○	13
⑧	丸山千枚田	三重県熊野市	△	小	中世	◎			◎	○	○	○	○	○	○					任意団体	○		15
⑨	稲淵棚田	奈良県明日香村	◎	大	古代	◎			◎		○		○	○						NPO	○	○	17
⑩	毛原の棚田	京都府福知山市	◎	小	古代	○			◎	○	○	○	○	○	○		○		○	任意団体	○		19
⑪	上山の棚田	岡山県美作市	△	大	古代		◎	◎		◎	○	○	○	◎	○		◎	◎	○	一般社団			21
⑫	井仁の棚田	広島県安芸太田町	○	小	中世	○		◎	○	○	◎		○	○		◎			○	任意団体	○	○	23
⑬	江里山の棚田	佐賀県小城市	△	中	中世	○				○	○	○		◎						任意団体	○	○	25
⑭	蔵野の棚田	佐賀県唐津市	△	大	近世	○				○	◎	◎	○	○		○				NPO	○	○	27
⑮	秋元	宮崎県高千穂町	×	小	不明	◎		○					◎	◎	◎		○	◎	○	株式会社	○		29



※1(地理的優位性)
 ◎:東京・大阪から車で2時間以内 かつ
 100万人都市から車で1時間以内
 ○:東京・大阪から車で2時間以内 又は
 100万人都市から車で1時間以内
 △:100万人都市から車で2時間以内 又は
 10万人都市から車で1時間以内
 ×:その他

※2(耕作面積)
 大:20ha以上
 中:10ha以上、20ha未満
 小:10ha未満

※3(取組の工夫(キーワード))
 ◎:特に優れた取組を実施
 ○:優れた取組を実施
 空欄:取組実施なし
 <事例集で取り上げている取組には色付け>

※4(ソーシャルビジネス)
 ここでは、地域社会の課題をビジネスを手段として
 解決しようとする取組のことを指す。

■ 目次（2／2）

Ⅱ． 棚田教室（31～40頁）

	テーマ	頁
①	オーナーが助けてくれることって多いよ	31
②	オーナー制度ってなに？	32
③	みんなで話し合っ、受入体制を整えよう	33
④	地域に合ったオーナー制の型を見つけよう	34
⑤	収入を増やす工夫を考えよう	35
⑥	知らないと損をするかも！制度を有効活用しよう	36
⑦	人手と資金が必要なときは・・・	37
⑧	クラウドファンディング（クラファン）ってなに？	38
⑨	情報を発信しよう	39
⑩	ステップアップするには・・・	40

《活用ガイド》

「棚田教室」は、棚田の保全や地域の活性化に向けて取り組みたいと考えている地域の方々に参考にしていただく目的で作成しています。お悩みのテーマのページをご参照ください。ヒントにしたい取組や考え方を漫画形式で記載しています。ここでは「パートⅠ」で取り上げている優良事例の取組をたくさん引用しているので、最初に「棚田教室」を読み、気になった取組の事例集を逆引きすることもできます。



棚田博士

Ⅲ． 課題克服一覧（41頁）

《活用ガイド》

「課題克服一覧」では、「パートⅠ」の優良事例集で取り上げた15地域が直面した課題と克服方法を1枚にまとめています。事例集の逆引きとして活用できますが、事例集で取り上げた克服方法のみの掲載となりますので、取組のヒントを探す際には「パートⅡ」の「棚田教室」をご参照ください。

Ⅳ． 施策活用逆引集（42～44頁）

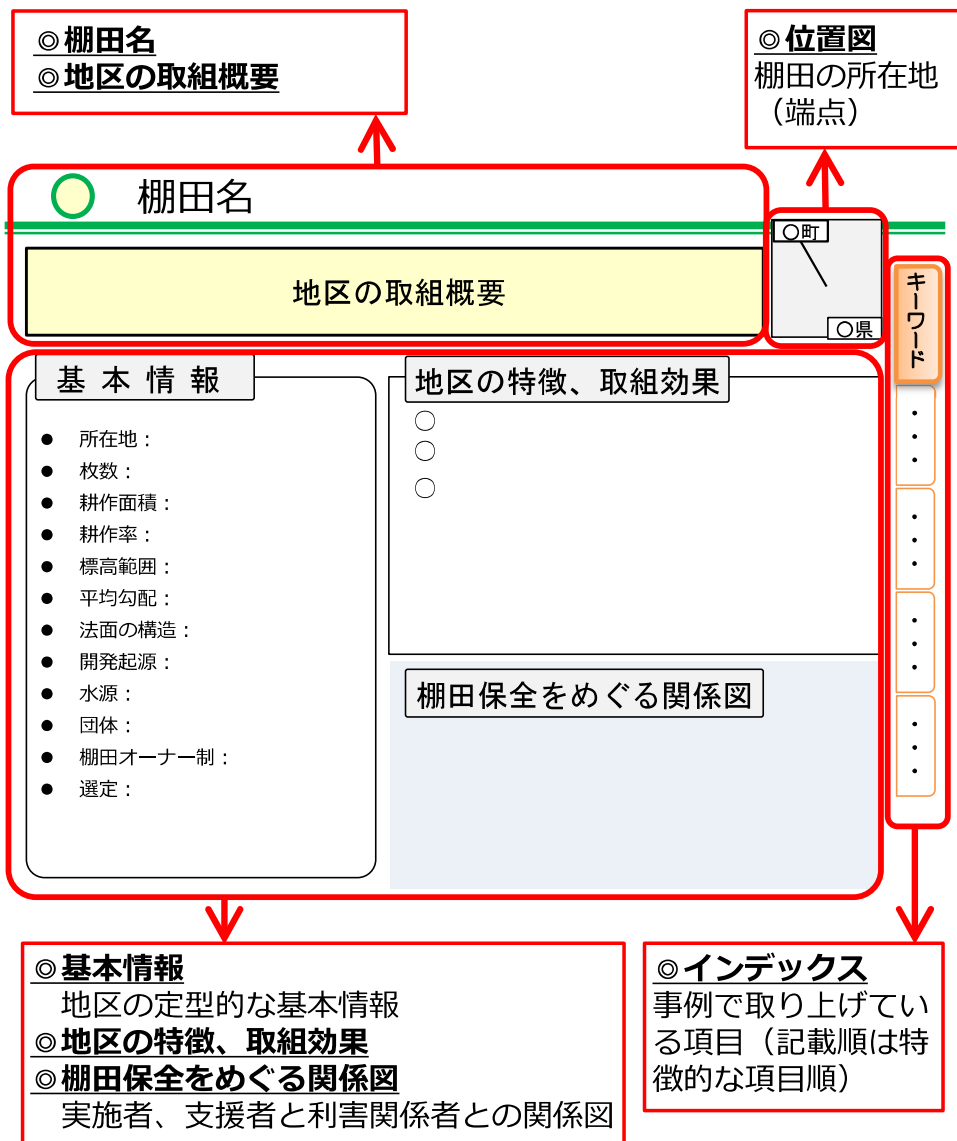
《活用ガイド》

「施策活用逆引集」では、「パートⅠ」の優良事例でも多く活用され、棚田の保全や地域の活性化に有効で現在も活用できる国の施策を簡単に紹介していますので、地域での活用をご検討ください。なお、PDFでは優良事例の活用施策から農林水産省の関連ページに飛べるよう施策名にリンクを貼っております。併せてご参照ください。

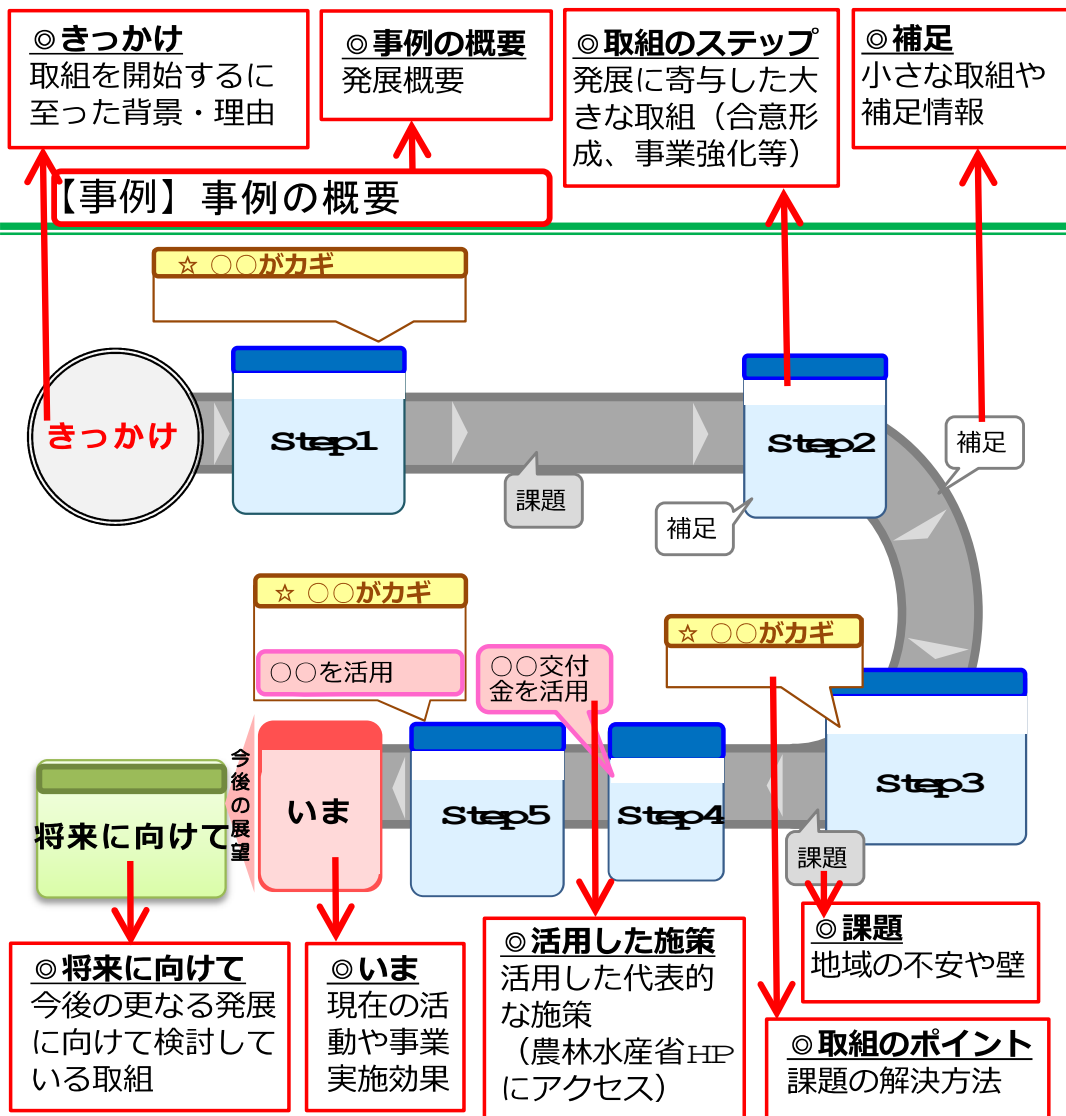
■ 事例集の活用ガイド

地域の特性を活かした特色ある発展を実現した地域を優良事例として2枚1組で紹介します。

【1枚目】 棚田や取組の特色を以下の項目で紹介します。



【2枚目】 取組の流れを経時的な一連のプロセスとして整理します。



朝日町



山形県

あさひまちくぬぎだいら

-

- 「榎平の棚田」は、高台の農村公園から俯瞰でき、扇の形状に見える眺望が素晴らしく、町民の自慢のひとつである。
- 「日本の棚田百選」に選ばれたものの、条件の悪い棚田での作業のため、荒廃と離農が進む状況にあった。このため、棚田保全会を立ち上げ、話し合いを進め、保全活動をスタートさせた。
- 保全活動により、原風景がよみがえり、今では年間6,000人の観光客が訪れるまでになり、米のブランド化にもつながっている。

棚田保全をめぐる関係図

```
graph TD
    Village[能中集落] -- 販売 --> Shops[県内外の米穀問屋 6割  
小田原市百貨店 3割]
    Village -- 運営 --> Festival([祭り開催 年2回])
    Village -- 広報 --> Team[棚田保全隊]
    Network[NPO法人棚田ネットワーク] -- 紹介 --> Village
    Network -- 売り先のマッチング等 --> Shops
    Shops -- 参加 --> Festival
    Team -- 参加 --> Festival
    Team -- 草刈り、杭掛け等 --> Village
    Team -- 労働力代価 --> Village
    National[国] -- 中山間直払等活用 --> Village
    Prefecture[山形県] -- 支援 --> Village
    Town[朝日町] -- 支援 --> Village
    District[朝日町土地改良区] -- 支援 --> Village
```

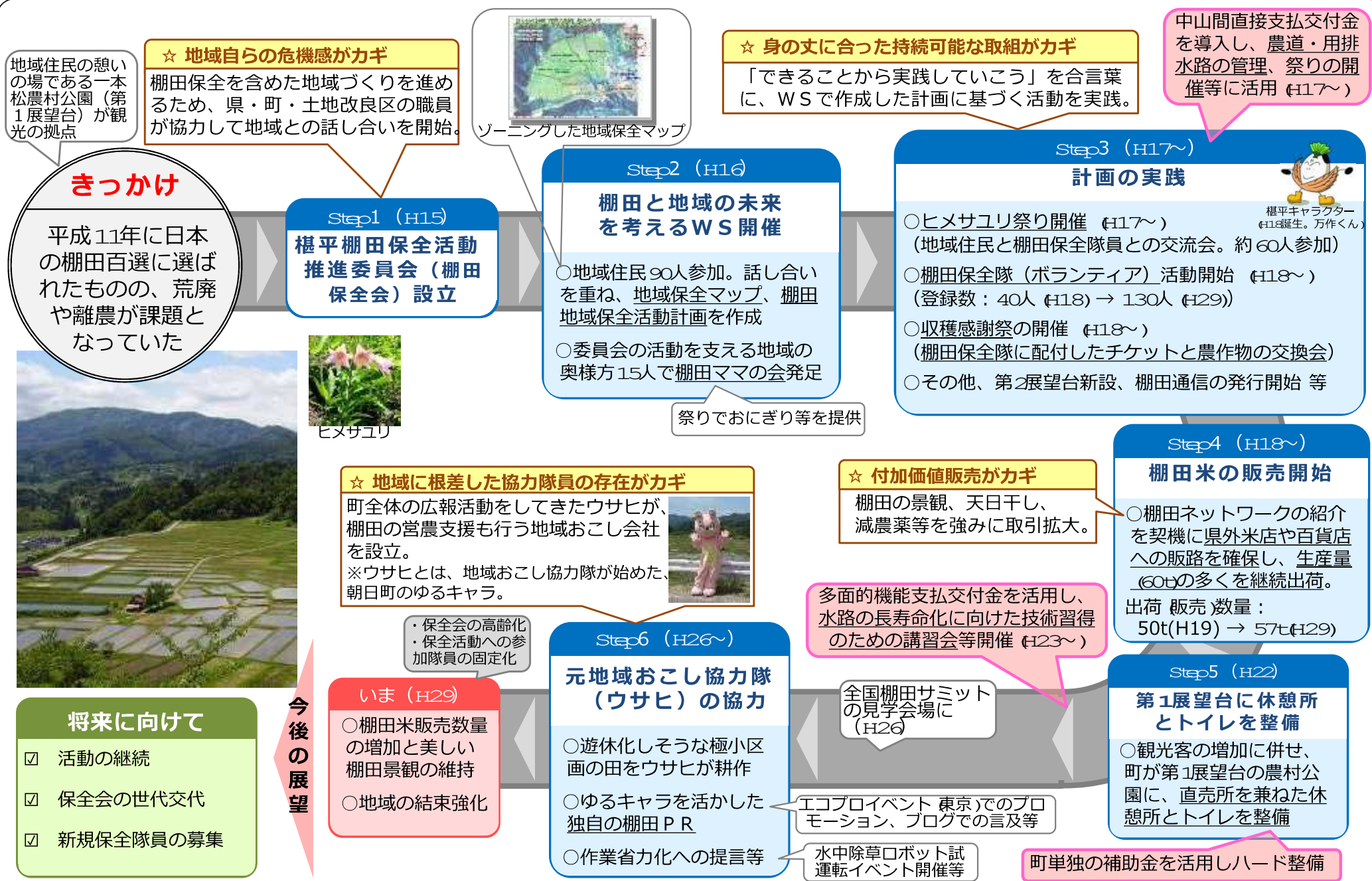
能中集落
構成員：38世帯
榎平棚田保全活動推進委員会
(棚田保全会)
(平成15年設立)
構成員：耕作農家25戸
耕作面積：14ha
活動内容：棚田保全活動
棚田米ブランド化
美しい棚田景観の維持
杭掛け天日干し、減農薬栽培

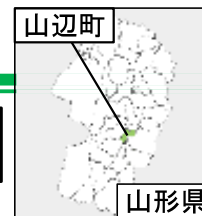
NPO法人棚田ネットワーク
紹介
売り先のマッチング等
販売
県内外の米穀問屋 6割
小田原市百貨店 3割
参加
祭り開催 (年2回)
・地域活性化
・棚田チケットと米等の交換
参加
棚田保全隊
・草刈り、杭掛け等、手間のかかる作業の手伝い (ボランティア)
・その労力代価として棚田チケット (地域通貨) が支払われる

中山間直払等活用
国
山形県
朝日町
朝日町土地改良区
支援
広報

ボランティア

【事例】ワークショップ（WS）による話し合いを基に、できることから実践





○ 地域内外・農家非農家を問わない「協働の力」で棚田の再生と地域の振興を図っている。

基本情報

やまのべまち おおわらび

- 所在地：山形県東村山郡山辺町大蕨
(山形駅から車で30分)
- 枚数：約80枚
- 耕作面積：約13ha
- 耕作率：約91%
- 標高範囲：350～410m
- 平均勾配：1/7
- 法面の構造：土羽
- 開発起源：寛永13年（1636年）
- 水源：湧水
- 団体：中地区有志の会、グループ農夫の会
- 選定：日本棚田百選（H11）、山形棚田20選（H19）



（上）山形県大蕨棚田米とJリーグのモンテ棚田米の2種類を販売。アルケッチャーノ奥田シェフのおいしい炊き方レシピ付き。

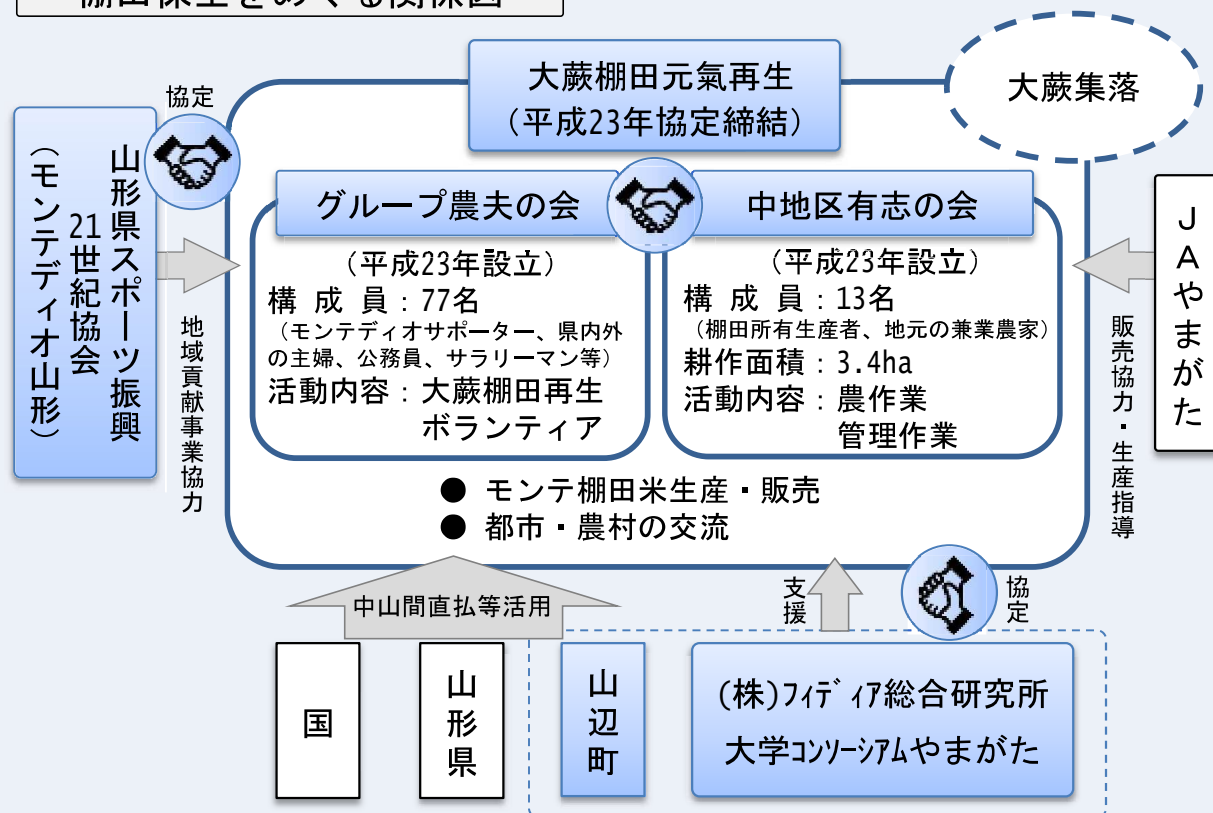


（下）大蕨棚田再生事業の「棚田でダンス・大地の声が聴こえるかい」の一場面。年間を通して、このようなイベントを開催し交流を深めている。

地区の特徴、取組効果

- 大蕨棚田は町を代表する景観のひとつだが、担い手の高齢化等で一時は耕作率3割となり、伝統の杭掛け風景が失われつつあった。
- そこで、棚田の元気再生に賛同する5つの組織（下図青色）が協定を結び、棚田のてっぺんまでの再生を目指して取組を始めた。
- 各種取組や、プロサッカーチーム「モンテディオ山形」等の支援により、作付け面積を年々拡大するとともに、イベント開催時の参加者との交流も活発になってきている。

棚田保全をめぐる関係図



キーワード

地域外との連携

企業CSR

棚田米販売

都市農村交流

クラブファン

ボランティア

【事例】地域外のアイデアとプロサッカーチームの協力を得て棚田再生を目指す

中山間直接支払交付金導入(H12)
町単独の杭掛け補助導入(H12)

H12から導入したオーナー制度は、受入れ側の疲弊、不採算等により、5年で断念

きっかけ

オーナー制度を導入し再生を試みたが
取組が途絶え、美しい景観が失われ
つつあった



伝統の杭掛け

棚田の荒廃が新聞に掲載(H22)

Step1 (H23)

中地区有志の会設立 グループ農夫の会設立

- 事業主体は、地元農家の「有志の会」とボランティア団体の「農夫の会」。「有志の会」は生産管理及び農業体験指導、「農夫の会」は事務局とマネジメント(生産支援、販売、交流企画等)を担う。
- 事業運営費は「農夫の会」会費と棚田米販売代金を原資とする。

☆非農家住民の行動がカギ

地元生産者だけの棚田再生は困難と憂慮した地域内外の非農家住民らが、新たな組織による新たな仕組み作りで協力。

Step2 (H23~)

棚田再生に賛同する組織とコラボし、地域外との交流による地域の活性化

- 地域密着型のプロサッカーチーム「モンテディオ山形」、当時のやまがた6次産業推進事務局「(株)フィディア総合研究所」、「山辺町」を交え、棚田の保全を通じた農業の再生、環境の維持、地域の振興を目的とする5者協定を締結
- 協働の力で棚田再生スタート。田植え・稲刈り・杭掛けイベントや雪中棚田サッカー大会を開催し、大蔵棚田米・モンテ棚田米の販売開始。

☆地域外(プロサッカーチーム)の協力がカギ

モンテディオ山形の協力で、地域や棚田に所縁のないサッカーファンも取り込み、知名度アップ。

中山間直接支払交付金を活用し、機械(病害虫防除の機材、乾燥・調整施設)や農作業を共同化

Step3 (H24~)

イベント追加

- 棚田の米粉教室・じゃがいも収穫体験・棚田収穫祭を開催

☆相互扶助の取組がカギ

農家だけでなく、様々な組織の協働で、得意不得意を補いながら地域に人を呼ぶイベントや販売に取り組む。

Step4 (H26~)

イベント追加

- 杭掛けの棚田を舞台に「棚田でダンス・大地の音が聴こえるかい」開催



モンテディオ山形の選手、スタッフ、サポーター等が参加する大蔵棚田田植えイベント

いま (H29)

- クラウドファンディングにより苗代等を調達
- 棚田再生は、0.4ha(H23)→2.5ha(H28)、棚田米販売量は、1.7t(H23)→7.7t(H28)に拡大
- イベント参加者も少しずつ増加(年間550人参加)

多面的機能支払交付金導入(H29)

Step6 (H28~)

イベント追加

- WS参加者の発案で「棚田でダンス」と山形交響楽団とのコラボ、フラビ採り体験等の新たな企画を開始

Step5 (H26)

ワークショップ開催

- 棚田の保全と次世代への継承を考える話し合い(WS)を、有志の会・農夫の会・町のメンバーで開催

将来に向けて

- ☑ 棚田のてっぺんまでの再生を目指す
- ☑ 棚田の文化的景観を次世代に継承

今後の展望

○ 都市住民ボランティアとの協力・協働によりスタートした震災復興と集落の存続を目指した活動が、地域おこし協力隊等の活用を通じて、自発的な地域づくり団体へと発展した。NPO 法人では若者を雇用し、米の直販や移住定住に向けた支援に取り組み、農業の振興と地域の後継者づくりを推進している。



基本情報

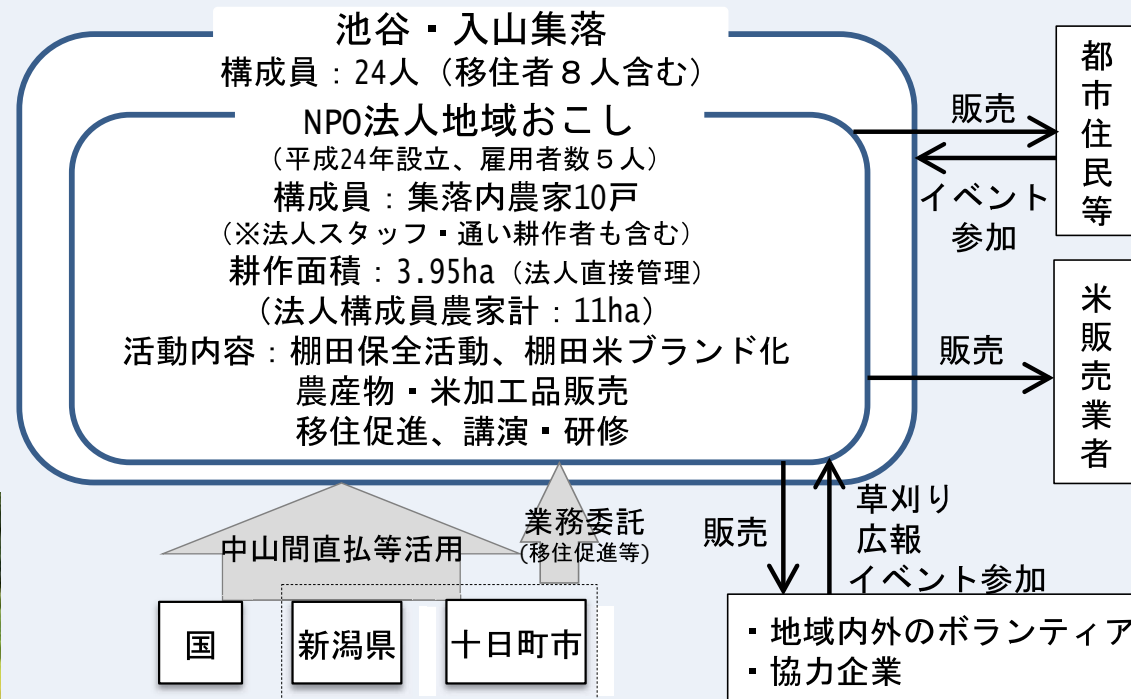
- 所在地：新潟県十日町市池谷・入山
(JR十日町駅から車で30分)
- 枚数：156枚
- 耕作面積：約16.5ha
- 耕作率：約90%
- 標高範囲：200～300m
- 平均勾配：1/13
- 法面の構造：土羽
- 開発起源：江戸時代以前
- 水源：湧水
- 保全団体：NPO法人地域おこし
(前身は十日町市地域おこし実行委員会)
- 棚田オーナー制：H30から開始
- 選定：地域づくり総務大臣表彰 (H23)



地区の特徴、取組効果

- 1960年に37世帯211人いた池谷集落は、2000年代には僅か8世帯に。新潟県中越大地震（2004年10月）により、さらに6世帯13人まで減少し、集落存続の危機に。
- 災害ボランティアの受入れをきっかけに「十日町市地域おこし実行委員会」を設立。都市部との交流事業や移住促進事業などを積極的に行うことで、11世帯25人（うち、子供6人）に増加し、「奇跡の集落」と呼ばれる。
- 集落で生産した魚沼産コシヒカリを「山清水米」というブランド米として販売。現在は、若手移住者による棚田保全活動も加わり、約22.5t（平成27年）を出荷。

棚田保全をめぐる関係図



キーワード

棚田米販売
地域外との連携

移住促進
ボランティア

ソーシャル
ビジネス
地域おこし
協力隊

クラファン
都市農村交流

オーナー制度
6次産業化

【事例】震災からの復興～集落の存続に向けた、米の直販と移住定住への取組

